

04 地理学専攻

Geography

(1) 修士課程

● 目的

地理学専攻は、学部等の教育を基礎として高度な専門的教育を行い、大学・研究機関の研究者、豊富な専門知識を必要とする教員・専門職従事者を養成することを目的とする。

● 学位授与の方針

所定の必修科目・選択科目を履修し、修士論文審査に合格した者は、課程を修了するとともに修士（地理学）を授与される。課程修了者は、高度な専門知識と問題解決能力を有し、社会に貢献する人材となる。修士論文の基準については学位審査基準に明記する。

● 教育課程の編成・実施方針

修士課程においては、指導教員の演習8単位、選択科目22単位以上を履修する。1年次には専門分野および関連分野の高度な知識を、講義・演習・実習により修得する。同時に、文献講読・資料調査・予備調査を実施し、演習での議論を通じて、研究課題の理論的・実践的基盤を形成する。2年次には修士論文の作成を目的とし、調査計画の立案・調査の実施・データ分析・論文執筆の各段階で、綿密な議論を繰り返し、完成度の高い修士論文を作成する。

● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

● 学位論文の審査基準

修士論文は以下の基準により評価する。

1. 研究課題の学問的な意義と独創性
2. 既往の研究に対する検討の適切性
3. 研究方法と資料の適切性
4. 研究結果に基づく考察・結論の妥当性
5. 論文構成・論理構成の整合性
6. 文章表現および図表表現の適切性

● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の科目を履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、指導教員以外の演習科目の中から10単位、他専攻の講義科目の中から4単位に限り履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 指導教員が必要と認めた場合は、交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）〈P.12〉」の授業科目を履修することができる。
4. 他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
5. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
地理学特講Ⅱ	講義	4	専任	橋 詰 直 道	(本年度休講：在外研究) (本年度休講：在外研究) [経済地理学特講] (経) と合併 集中講義
地理学特講Ⅱ	演習	4	専任	橋 詰 直 道	
自然地理学特講Ⅰ	講義	4	専任・博 (理)	平 井 幸 弘	
自然地理学特講Ⅰ	演習	4	専任・博 (理)	平 井 幸 弘	
自然地理学特講Ⅱ	講義	4	兼任・文博	柳 田 誠	
自然地理学特講Ⅳ	講義	4	専任・博 (理)	鈴 木 秀 和	
自然地理学特講Ⅳ	演習	4	専任・博 (理)	鈴 木 秀 和	
人文地理学特講Ⅰ	講義	4	専任・博 (理)	佐 藤 哲 夫	
人文地理学特講Ⅰ	演習	4	専任・博 (理)	佐 藤 哲 夫	
人文地理学特講Ⅱ	講義	4	兼任・博 (デザイン)	王 尾 和 寿	
人文地理学特講Ⅳ	講義	4	専任	小 田 匡 保	
人文地理学特講Ⅳ	演習	4	専任	小 田 匡 保	
人文地理学特講Ⅴ	講義	4	専任	土 谷 敏 治	
人文地理学特講Ⅴ	演習	4	専任	土 谷 敏 治	
地誌学特講Ⅱ	講義	4	専任・博 (地)	小 野 映 介	
地誌学特講Ⅱ	演習	4	専任・博 (地)	小 野 映 介	
地誌学特講Ⅲ	講義	4	専任・博 (地)	高 橋 健太郎	
地誌学特講Ⅲ	演習	4	専任・博 (地)	高 橋 健太郎	
地図学特講Ⅱ	講義	4	専任・博 (理)	田 中 靖	
地図学特講Ⅱ	演習	4	専任・博 (理)	田 中 靖	
地域文化研究特講Ⅰ	講義	4	専任・博 (理)	須 山 聡	
地域文化研究特講Ⅰ	演習	4	専任・博 (理)	須 山 聡	
地域環境研究特講Ⅰ	講義	4	専任・博 (理)	江 口 卓	
地域環境研究特講Ⅰ	演習	4	専任・博 (理)	江 口 卓	
地域環境研究特講Ⅱ	講義	4	専任・博 (学術)	鈴 木 重 雄	
地域環境研究特講Ⅱ	演習	4	専任・博 (学術)	鈴 木 重 雄	
地域調査特講 (前期)	講義	2	専任・博 (理)	須 山 聡	
地域評価特講 (後期)	講義	2	専任・博 (理)	須 山 聡	
フィールドワーク	実習	2	専任・博 (理)	須 山 聡	

● 授業科目の概要

■ 地理学特講【講義】

橋詰 直道

学部で学んだ地理学をベースに、さらに様々な視点から、最新の研究成果を踏まえながら、地理学研究の本質とその意義について学ぶ。例えば、地域や場所の諸現象について、その特性や変化、空間パターンなどを見出し、それらが生じた自然的・社会的・経済的あるいは文化的背景について考察し、または仮説を検証することで空間的諸現象に関わる理論構築するための方法論を、地理学に関連する分野の最新の研究成果も紹介しながら講義する。

■ 地理学特講【演習】

橋詰 直道

地理学研究の方法論について、自然地理学、人文地理学、地図学・応用地理学など様々な分野における研究成果について、文献研究と講読・発表を通して学ぶ。例えば、気候学、水文学、地形学、農業・工業・商業・観光地理学、農村・都市地理学、地図学・応用地理学などの幅広い分野から、最新の研究を中心に各自の専門領域・分野を考慮しながら、レビュー発表し議論することで、地理学に関する専門的な見方・考え方・方法論について学ぶ。

■ 自然地理学特講【講義】

鈴木 秀和／平井 幸弘／柳田 誠

自然地理学の中でもとくに地形学、水文学、環境地理学の視点から、ある地域の自然的特質と、自然と人および地域社会との関わりについて考察することを目的とする。基礎的事項として、地形発達の諸要因、水の基本特性、水質の形成機構等を学ぶ。応用的問題として、地域における環境問題や災害、地球規模の温暖化・海面上昇などの問題を議論する。またこれらの課題を研究するための、各種資料の入手・分析手法、地形図の読解や空中写真判読、またフィールドでの具体的なデータを取得するための調査技術についても解説・指導を行う。

■ 自然地理学特講【演習】

鈴木 秀和／平井 幸弘

「自然地理学特講」の内容を踏まえ、受講生が自らの研究課題を設定し、最終的に修士論文を作成するまでの研究指導を行う。まず、それぞれの研究テーマに関する学術論文のレビューを通して、これまでの研究成果や近年の研究動向を把握し、自らの研究課題の設定、研究の意義づけや最終目標などについて議論する。次いで、具体的な研究対象地域や研究手法を検討し、資料分析や現地調査の準備を行う。そして、得られた分析結果や調査結果をもとに、修士論文執筆にあたっての指導と、研究成果の外部（学会や研究対象とした地域社会）への発表や還元について助言する。

■ 人文地理学特講【講義】

王尾 和寿／小田 匡保／佐藤 哲夫／土谷 敏治

人文地理学の諸分野における理論と方法、研究動向と今後の課題などについて紹介するが、一方的に講義するのではなく、受講者全員による議論や文献の講読などを中心に授業を行う。この授業を通じて、受講者各自の研究計画策定の指針が得られるように、人文地理学の諸分野における研究の現状について理解を深めるとともに、受講者各自の研究に活用できるように、研究に必要な技能や分析方法の技術を向上させるのがねらいである。

■ 人文地理学特講【演習】

小田 匡保／佐藤 哲夫／土谷 敏治

人文地理学の諸分野における研究テーマについて、受講者の関心を反映させながら、関連文献の講読、研究目的と調査方法の検討、調査計画の立案、分析資料の検討、調査結果の分析・考察・結論導出の適切性の検討、論文構成の検討、発表準備などについて、受講者全員での議論を通して指導する。この授業を通じて、受講者各自の研究テーマや研究計画の確立と、より高度で完成度の高い内容をもった修士論文の執筆をめざす。

■ 地誌学特講【講義】

小野 映介

地誌学や地理学的地域研究についての基本的な研究法を考察する。まず、日本や世界の諸地域に関する関係領域の従来の研究を検討し、地域、地域性、地域構造など地誌学的研究の基本概念を検討する。その後、地誌学における研究と地理学研究一般との関係を対照しながら、地誌学的研究の方法論の基本を学ぶ。さらに、世界と日本の諸地域に関する様々な具体的な研究事例に基づいて、地誌的な地域調査の方法と地誌的研究における分析法を学ぶ。

■ 地誌学特講【演習】

小野 映介

地誌学や地理学的地域研究についての基本的な研究法を考察させ、世界や日本の諸地域に関し、受講生各自の研究を題材として具体的な調査方法を考えさせ、結果を分析し、まとめるための方策を考えさせる。すなわち、受講生各自の研究と関連させながら、「地誌学特講」（講義）で検討した地誌学的研究の方法論の基本を踏まえて、各自が取り組む課題に応用、適用可能な地誌的な地域調査方法、図表地図作成の方法、分析法、まとめ方を具体的に考えさせる。

■ 地図学特講【講義】

田中 靖

この講義では、講義と実習の両面からコンピュータを用いた地図の作成方法と使用方法を実践的に学び、それを通して地理情報学およびその周辺分野の理論と、コンピュータ環境の整備、データの入手、データ解析手法の基礎を習得する。受講者は、持ち運びのできるPC持参で授業に臨むのが望ましい。解析に使用するソフトウェアは、GMT、ArcGIS、ErdasImagine、Matlabなどを予定している。また、データの準備や解析作業にはプログラミングの知識が必要となることが多いが、これについては主にC言語で対応する。

■ 地図学特講【演習】

田中 靖

この演習では、地理情報学・地図学・自然地理学分野に関する最新の知見を理解する基礎学力を身に付け、研究成果を社会に発信するのに必要な能力を養い、修士論文を完成させることを目標とする。そのために、受講生が実際に研究対象としている地域について、地理情報システムを用いた空間解析を教員と共に行うのに加え、必要に応じて関連する論文のレビュー、室内実験、野外調査を行う。したがって、この演習の内容は各受講者の研究テーマに合わせて調整する。

■ 地域文化研究特講【講義】

須山 聡

文化景観の構築とその読みについて講義する。景観を単なる地表の相貌とは捉えず、読みや利用の対象と考える。景観テキスト論・メディア論・景観保全・文化財としての景観など、いくつかの論点を教員が講義し、それらに関して受講者と議論する。議論が発展する過程で実際のデータ分析や観察などが必要となる場合には、実際の景観観察や分析を実施する。文化景観の読みについてのさまざまな手法を身につけることがこの授業の到達目標である。

■ 地域文化研究特講【演習】

須山 聡

文化景観・産業景観など、景観に関する諸問題を考究し、修士論文の作成を到達目標とする。地表面象はすべてが景観に収斂するため、地理学を学ぶすべての学生に対してこの授業は開かれている。授業は文献紹介と講読、および受講者のプレゼンテーションにより進行する。1年次は文献購読と紹介を中心とし、研究テーマの設定と研究動向の俯瞰に努める。2年次は修士論文ゼミとして修士論文の進行状況を報告する。調査の企画立案・データの収集整理・論文の構想と執筆までのすべての過程を指導する。

■ 地域環境研究特講【講義】

江口 卓／鈴木 重雄

日本や諸外国における環境問題について、地理学の視点から考察して理解を深め、問題解決の方策を検討することを目標とする。とくに、気候や生態などに関する分野の環境問題について、最新の研究成果に触れながら、自然環境と人間とのかかわりについて考察する。環境問題を解決するために必要なデータの入手方法、解析手法、フィールドにおける調査方法などについても指導を行う。

■ 地域環境研究特講【演習】

江口 卓／鈴木 重雄

修士論文作成に関わる研究計画・調査・分析・論文の執筆を通して、環境への理解を深め、研究成果の学術的発信や社会への適応に必要な能力を養うことを目標とする。修士論文の作成に向けて、気候学や生態学などの関連分野の研究課題を整理しつつ、調査手法、データ解析、論文執筆の方法を学ぶ。これら取得した研究手法を駆使して、フィールドワークや資料などから得られたデータを解析・考察することにより、修士論文を完成させる。

■ 地域調査特講（前期）【講義】

須山 聡

本講義は、地域調査を主たる調査方法として修士論文を作成する学生を対象とし、実践的な調査計画の立案能力を身につけさせることを趣旨としている。したがって、授業全体が地域調査の企画・設計のために必要な知識やスキルの具体例を講義することに向けられ、受講者それぞれの課題に応じて、実際に修士論文のための調査計画を受講者自身が作成することを支援する科目である。実現可能で課題達成のために効果的な地域調査の企画・設計を行う知識と技能を習得することが、本講義の到達目標である。

■ 地域評価特講（後期）【講義】

須山 聡

本講義は、地域調査に基づいて地域の実態を正確にとらえ、当該の地域が抱える諸問題を摘出し、地域計画や地域振興に資する地域に根づいた提案能力を身につけることを趣旨とする。なお、本講義は「地域調査特講」および「フィールドワーク」と連動しているため、これらを合わせて履修することが望ましい。地域調査から得られたデータを正確に分析し、それを精密に記述する報告書作成のスキルを身につけることが第1の目標である。それに基づき、地域に内包される問題点を摘出し、改善を提案する地域診断レポートを作成することが第2の目標である。

■ フィールドワーク【実習】

須山 聡

本科目は地域調査の実習科目であり、「地域調査特講」で立案した調査計画に基づき、受講生が地域調査を実施し、自らが立てた調査計画の有効性を検討することを目的とする。具体的には、①対象地域住民に趣旨を正確に説明し、円滑に調査を実施する能力、②採集困難な文書・絵図・記録類を入手・複写する能力、③インフォーマントからさまざまな地域情報を聞き出す高度なコミュニケーション能力、④行政やメディアなどの協力者から有効な支援を引き出す交渉能力、⑤研究者としての良心・良識、⑥対象地域の価値観を尊重する態度、を習得することを大きな目標としている。

(2) 博士後期課程

● 目 的

地理学専攻は、大学院修士課程修了者、あるいはそれと同等の能力があると認められる者に対して研究指導を行い、地理学のより高度な専門的知識、調査・研究能力を身につけた研究者・専門職従事者を養成することを目的とする。

● 学位授与の方針

所定の必修科目を履修し、博士論文審査に合格した者は、課程を修了するとともに博士（地理学）を授与される。学位取得者は深遠な世界観・学問観と高度な専門知識を有し、新たな知の確立を模索する人材となる。博士論文の基準については学位審査基準に明記する。

● 教育課程の編成・実施方針

博士後期課程では、指導教員の講義12単位および研究指導を履修する。既往の研究を批判的に検討するとともに、自らの研究蓄積をその中に位置づける。これを基本として視野の広い研究計画を構想する。さらに課題達成のための方法論を立案し、調査および分析を実行する。これらの蓄積の集大成として博士論文を作成する。以上のプロセスを講義および研究指導における教員との議論、国内・国外学会での発表と討論、専門学会誌への論文投稿によって推進する。

● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたいえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修すること。

年 次	必修科目	選択科目	合 計
1年次	指導教員の講義 4単位および研究指導	任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		

● 学位論文の提出要件

原則として、博士論文のテーマに関する、査読制度を伴う学術雑誌掲載論文を含む複数の公刊論文があること。

● 学位論文の審査基準

博士論文は以下の基準により評価する。

1. 研究の背景をなす地理学観の確立
2. 学界および社会一般に対する学術上の貢献
3. 研究課題の学問的な意義と高度の独創性
4. 既往の研究に対する広範囲かつ深い検討とその適切性
5. 研究方法と資料の適切性
6. 研究結果に基づく考察・結論の妥当性
7. 論文構成・論理構成の整合性
8. 文章表現および図表表現の適切性

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者	備 考
地理学特殊研究 地理学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博（理） 佐藤 哲夫	
自然地理学特殊研究Ⅰ 自然地理学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博（理） 江口 卓	
自然地理学特殊研究Ⅱ 自然地理学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博（理） 平井 幸弘	
人文地理学特殊研究Ⅰ 人文地理学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任 土谷 敏治	

人文地理学特殊研究Ⅱ 人文地理学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・博(地)	高橋 健太郎	(本年度休講：在外研究)
人文地理学特殊研究Ⅲ 人文地理学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任	小田 匡保	
地誌学特殊研究Ⅱ 地誌学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任	橋詰 直道	
地誌学特殊研究Ⅲ 地誌学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任・博(理)	須山 聡	
地図学特殊研究 地図学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(理)	田中 靖	

● 授業科目の概要

■ 地理学特殊研究【講義】 ■ 地理学研究指導【研究指導】

佐藤 哲夫

受講者の研究テーマに応じて、研究に関連する文献の講読、研究課題設定と方法論の検討、調査計画立案、調査実施と調査結果考察の適切性の検討、論文構成の検討、発表準備などについて指導する。この授業を通して、博士論文執筆に向けて、研究の完成度を高めるのがねらいである。

■ 自然地理学特殊研究Ⅰ【講義】 ■ 自然地理学研究指導Ⅰ【研究指導】

江口 卓

気候や大気に関連する環境問題について、地理学の見地から解析・考察を行い、博士論文を完成させることを目標とする。気候や大気に関連する環境問題に関する最新の論文の講読を行い、研究テーマの設定を行う。その上で、解析を行った結果を基に、成果の発表を行い、参加者全員で討議する。それらの成果をもとに、研究論文を作成するための指導を行う。

■ 自然地理学特殊研究Ⅱ【講義】 ■ 自然地理学研究指導Ⅱ【研究指導】

平井 幸弘

自然地理学とくに地形学・環境地理学の視点から、国内外における水辺の環境問題に関して、講義および研究指導を行う。環境に関する「ラムサール条約」、「気候変動枠組み条約」、「生物多様性条約」などの国際条約を軸に環境問題を歴史的に理解し、また国内のラムサール条約登録湿地やタイ、ベトナムなどアジア地域における具合的な調査・研究事例を通して、水辺の開発と環境問題、また自然再生、ワイズユース等について議論する。これらをもとに、受講生自らの研究テーマについて、着実に調査・研究が深まるよう指導する。

■ 人文地理学特殊研究Ⅰ【講義】 ■ 人文地理学研究指導Ⅰ【研究指導】

土谷 敏治

交通や都市に関する問題を中心に、受講者の研究テーマに則した論文の講読、受講者のこれまでの研究成果、調査・研究計画、調査結果の発表を行うとともに、発表内容についての受講者全員で討議する。これらを通じて、受講者の今後の研究テーマや研究計画を確立することを目的とする。

■ 人文地理学特殊研究Ⅲ【講義】 ■ 人文地理学研究指導Ⅲ【研究指導】

小田 匡保

人文地理学分野で博士論文の提出を目指す学生のための科目である。授業では、履修者の研究テーマに応じた関連文献を講読し、研究史の批判的検討を行なう。また、履修者が自身の調査にもとづく研究成果を発表し、全員で討議することにより、研究の進展をサポートする。博士論文の前段階として、学会誌への投稿論文を複数執筆するが、途中段階で文章や図表を推敲し、細部においてもミスのない論文が作成できるようにする。最終的には、きちんとした博士論文を完成させることが目標である。

■ 地誌学特殊研究Ⅱ【講義】
■ 地誌学研究指導Ⅱ【研究指導】

橋詰 直道

各自の修士論文の成果を基に研究を深化させ、成果の学会発表と学会誌への投稿・掲載、さらに課程博士号取得を最終目標とする研究指導を行う。講義では、国内外の地誌学、都市地理学、都市計画及び都市計画史などに関する研究を紹介する。研究指導では、各自の研究テーマに沿った最新の学術論文のレビューを課題としながら、各自の研究テーマや研究方法、あるいは研究対象地域の設定とデータ収集方法、地域分析手法と仮説の検証及び理論構築の方法、プレゼンテーションの手法などについて、その都度、議論をしながら発表・投稿論文の作成指導を行う。

■ 地誌学特殊研究Ⅲ【講義】
■ 地誌学研究指導Ⅲ【研究指導】

須山 聡

人文地理学に関する博士論文の作成を到達目標とし、それに向けた講義および研究指導をおこなう。授業は受講者の研究テーマに即し、先行研究の講読と研究課題の設定をまずおこなう。次に調査計画の立案、データの整理・地図化についての分析・検討を進める。さらに論文の構成・執筆についての受講者の発表をもとに、討論しながら検討を加える。研究テーマに関連する学会発表や講演についても指導し、プレゼンテーションや文章表現についても洗練させる。

■ 地図学特殊研究【講義】
■ 地図学研究指導【研究指導】

田中 靖

この講義および研究指導においては、博士論文作成に向けて、地理情報学・地図学・自然地理学分野に関する最新の文献のレビューと研究技術の習得、論文作成指導、学会誌への論文投稿指導を行う。受講者の研究レベル（学年）と研究の進捗に合わせてスケジュールや講義内容を作成する必要があるため、ここに詳細を書くことはできないが、毎年、初回の講義時に受講者と相談の上決定する予定である。この講義および研究指導を受けるためには、大学院修士レベルの上記分野の基礎知識を有していることを条件とする。